

| | | | | | |
|------|------------------|----|----|-----|-----|
| 科目名 | コンピュータミュージック実習 I | 形態 | 実習 | 開講期 | 春学期 |
| 担当教員 | 小高 直樹 | 単位 | 1 | 年次 | 2 |

＝授業科目の目標＝

この授業においては、コンピュータを用いた音楽制作の基礎である MIDI を中心に学修する。近年のコンピュータ音楽は MIDI により飛躍的に進歩を遂げて普及した。MIDI を学修するにあたり、そのベースとなる「シーケンサー」を習得する。

＝履修の条件と学習の方法＝

- 1 機材を大切に扱うこと。電源を付ける順番に注意すること。
- 2 コンピュータを使う関係上、授業に関係のない行為をしないこと。
- 3 ネット上で違法となる行為は絶対にしないこと。
- 4 欠席する場合は担当教員に伝わるようにすること。
- 5 課題は期限までに提出すること。

＝授業内容＝

- 1 回 授業の内容及びシーケンサーの概要
- 2 回 ステップ入力とリアルタイム入力
- 3 回 ベロシティとステップタイム アクセントとスラーやスタッカートについて
- 4 回 ドラム譜とドラム入力
- 5 回 コントロールチェンジ 1 (音量変化 ビブラート)
- 6 回 コントロールチェンジ 2 (定位 ピアノのサスティンペダル)
- 7 回 コントロールチェンジ 3 (残響 その他のコントロール)
- 8 回 コントロールチェンジを用いた作品制作 1
- 9 回 コントロールチェンジを用いた作品制作 2 と発表
- 10 回 アレンジについての概要
- 11 回 M I D I 作品制作とアレンジについて
- 12 回 M I D I 作品制作 1 (アレンジの考察と作業)
- 13 回 M I D I 作品制作 2 (さまざまな実験と比較)
- 14 回 M I D I 作品制作 3 (仕上げ)
- 15 回 発表と講評

＝成績評価の方法と評価の基準＝

授業中に指示された制作課題の提出物を評価する。教員より受けたアドバイスをどれだけその後の制作物に反映できるのか、どれだけ既存の作曲家の作品を分析できているのかという基準のもとに評価がおこなわれる。

＝テキスト(必携)＝

特になし (必要性が生じた場合には授業中に楽譜入手の指示がでる可能性がある)